パーソナリティ研究
2006　第14巻　第2号　232–234

ショートレポート

© 日本パーソナリティ 心理学会 2006

中高年者の情報活用実践力とアイデンティティの再統合

Practical Information Utilization Skills and Identity Integration in Middle and Advanced Age

小　川　晃　子
Akiko OGAWA

岩手県立大学社会福祉学部
Faculty of Social Welfare, Iwate Prefectural University

問　題

平成15年末の調査結果（総務省情報通信政策局，2004）では，60歳以上のインターネット利用率は16.2%と他世代より大幅に低い．そのような状況において，同世代の中ではまだ少数派であるインターネット利用者は，このことによって情報活用実践力（情報を主体的に収集・表現・処理・創造・発信・伝達できる能力〔文部省，1998〕）を獲得して，コミュニティの参加情報を入手したり，電子空間での新たな交友関係を確立することなどにより，老年期の課題であるアイデンティティの再統合を行いやすいと予想される．これとは逆に，こうした再統合を成し遂げている者が積極的にインターネットなどに関わるという面も予想される．このことを背景として，本研究では，中高年者の情報活用実践力とアイデンティティの統合との関係を検討した．

方　法

1．調査対象[1)]

①シニアネット群：2004年10月から11月に，東北地方のZ県内にある全てのシニアネット9団体に所属する満50歳以上の会員856名を対象として，シニアネット事務局を通して調査票を配布し，回収はシニアネット事務局における一括回収と，郵送回収を併用した．261名分を回収し，回収率は30.5%であったが，本研究ではその中で満50歳以上のシニアネット会員である258名（男性132，女性125，性別無回答1）を分析の対象とした．平均年齢は66.3歳である．

②シルバーカレッジ群：2004年11月から2005年1月に，東北地方のZ県の委託事業である「シルバーカレッジ」の受講生417名を対象として，調査票を配布し回収した．194名（男性97，女性93，性別無回答4）分を回収し，回収率は46.5％であった．平均年齢は69.8歳である．

2．調査内容

情報活用実践力　高比良・ 坂元・森・坂元・足立・鈴木・勝谷・小林・木村・波多野・坂元 (2001) は，上の文部省 (1998) の定義を用いて，情報活用の実践力を中学生から大学生を対象として測定する尺度を作成している．本研究では，この尺度をもとに，中高年者の情報活用実践力を測定する尺度を新たに作成して用いた．高比良ほか (2001) が算出している6つの下位因子から該当する各項目への因果係数の推計値が大きい項目と，尺度のワーディングが中高年者の生活実感レベルで回答可能か否かという点とを併せて検討し，合計16項目（①収集力2項目，②判断力3項目，③表現力2項目，④処理力3項目，⑤創造力3項目，⑥発信・伝達力3項目）を選択した．これに，高齢者の生活実感レベルを考慮した新たな2項目（①収集力1項目，③表現力1項目）を加え，合計18項目からなる尺度とした．この情報活用実践力尺度の作成過程の詳細は小川 (2005) にある．

各項目については，1. 非常にあてはまる，から5. まったくあてはまらない，までの5件法を用いた．情報活用の度合いが高いほど得点が多くなるように各項目に1点から5点の点数を与え，総計点（18点から90点）を算出した．

アイデンティティ　岡本 (1996)は老年期にはそれまでの8段階の心理・社会的テーマが再び吟味されアイデンティティの中に統合されるというエリクソンの研究をもとにして，8段階30項目の心理・社会的課題の達成度を測定する尺度を作成している．本研究では，このうちアイデンティティ様態別の有意差があった18項目から新たに尺度を構成し，この尺度をアイデンティティ再統合尺度と名づけた (Table 1)．各項目については，アイデンティティのA) 統合とB) 拡散の2タイプを提示し，5. Aそのもの，4.どちらかといえばA，3.どちらともいえない，2.どちらかといえばB，1. Bそのもの，という5件法を用いた．項目ごとに，アイデンティティが統合されている方が高得点となるように5点から1点の得点を与え，18項目それぞれの平均点を求めた．なおTable 1のI, IIなどのローマ数字は発達段階別の課題を示している．

この他，性別や年齢，インターネット使用量や定年経験の有無も記入を求めた．

結果と考察

情報活用実践力　情報活用実践力尺度の得点分布には，シニアネット群とシルバーカレッジ群で有意な差がみられ

1) 本研究にご協力いただいたシニアネット及びシルバーカレッジの皆様に心から感謝申し上げます．

Table 1　アイデンティティ再統合と情報活用実践力との関係 (N=452)

測定項目			アイデンティティ再統合尺度[a]	情報活用実践力尺度との相関係数[b]
アイデンティティ	← 統合	拡散 →	平均値 (SD)	r
VIII	**人生の統合**	**絶望**	**6.67 (1.61)**	**.38*****
1) 今までの私の人生は	大変意義深いものだった	失敗や悔いの連続であった	3.43 (1.03)	.33***
2) 死に対して私は	十分心の準備ができており恐れはない	心の準備もなく恐ろしい	3.23 (1.00)	.25***
VII	**世代性**	**停滞**	**18.81 (2.95)**	**.47*****
3) 私の毎日の仕事や活動は，私に	大きな喜びや満足を与えてくれる	非常に苦痛で退屈なものである	3.85 (0.74)	.33***
4) 定年退職（現役引退）までの私の仕事は	非常にやりがいのあるもので積極的に打ち込んでやっていた	非常につまらないやりがいのないものだった	4.07 (0.83)	.27***
5) 子どもを育てることは私にとって	非常にやりがいのあるもので，一生懸命やってきた	親としての義務・責任でやってきただけで，子育ては苦痛であった	3.85 (0.88)	.31***
6) 私は若い頃からやろうとしてきたことを	かなり実現できた	まったく実現できなかった	3.49 (0.90)	.32***
7) 私は生活の中に見出している目標について	目標の実現に向かって着々と進んできた	今まで何の進歩もなかった	3.54 (0.82)	.38***
VI	**親密性**	**孤立**	**7.78 (1.41)**	**.26*****
8) 配偶者（妻・夫）と私は	互いによく理解し合い助け合って暮らしてきた	できるだけ関わり合わないようにしてきた	3.78 (0.94)	.21***
9) 私は友人や知人と	いつも親しくつきあい満足している	できるだけ関わり合わないようにしている	4.00 (0.76)	.21***
V **アイデンティティ**		**拡散　7.81 (1.37)**	**.47*****	
10) 私の生活を考えると私は	今なんで生きているのか，理由がはっきりしている	何のために生きているのかわからない	3.84 (0.78)	.41***
11) 私は現在やっている活動や役割に対して	積極的に一生懸命打ち込んでやっている	まったく消極的である	3.96 (0.81)	.42***
VI	**勤勉性**	**劣等感**	**7.39 (1.14)**	**.50*****
12) 私は	非常に役に立つ有能な人間であると思う	まったく役にたたない人間であると思う	3.26 (0.67)	.37***
13) 何か 1 つの課題やものごとをやりとげることは，私にとって	大きな喜びであり生きがいである	大変な苦痛である	3.15 (0.92)	.44***
III	**自主性**	**罪悪感**	**7.78 (1.55)**	**.47*****
14) 私は毎日の生活や活動を	自分自身で考え主体的に行動している	まったくなりゆきまかせである	3.07 (1.01)	.43***
15) 今までの私の生き方は	自分で主体的に考え決断してきたものだった	外部の事情や状況に流された受動的なものだった	3.91 (0.75)	.40***
II	**自律性**	**恥・疑惑**	**3.80 (0.83)**	**.18*****
16) 今までの生活から見ると，世の中は	私の生き方にぴったりしている	私にはまったく住みにくい	3.80 (0.83)	.18***
I	**基本的信頼感**	**基本的不信**	**7.27 (1.41)**	**.46*****
17) 私のこれからの人生は	最良のものであろう	明るい見通しがまったくもてない	3.61 (0.99)	.41***
18) 私は	自分のよりどころや支えになるものをしっかりもっている	何も支えがなくて不安でたまらない	2.96 (1.07)	.42***

[a] アイデンティティ再統合尺度の太字の数値は下位尺度ごとの平均値と標準偏差，および相関係数

[b] *** p<.001

なかったので，この2群を合算して扱い，以下の検証を行った．

この尺度の総計点の平均値と*SD*は，58.3点(9.0)であり，下位尺度の平均値は2.8から4.0までであった．全体のα係数は0.820で十分な信頼性があるといえる．シニアネット群の場合，インターネット使用量の同世代比較（「あなたのインターネットの利用は，同世代の人に比較して多いと思いますか．それとも少ないと思いますか」を「電子メール読み書き」など5つの項目ごとに5件法で測定）とこの尺度の総計点とはr=.36，下位尺度とはr=.06～30のいずれもプラスの相関がみられた．このことは中学生から高校生までを対象とした高比良ほか(2001)の結果と概ね一致している．

情報活用実践力尺度の平均値は，女性(57.1)より男性(59.4)が高く，75歳以上の後期高齢者(59.7)がそれ以下の年齢の前期高齢者(58.4)より高かった．

アイデンティティと情報活用実践力　アイデンティティの再統合尺度の平均値と*SD*はTable 1に示す通りである．情報活用実践力尺度との相関係数を求めた結果もTable 1に示した．8下位尺度全てで，有意なプラスの関係が認められた．

今回のデータから情報活用実践力の高い中高年者の方がアイデンティティの統合がなされていることが明らかになったといえる．

情報活用実践力がアイデンティティの統合やインターネットの使用量と有意なプラスの相関関係を示しているのは，この実践力をもつことが，定年などの老年期のアイデンティティ危機を乗り越えやすくしているためではないかと推測される．しかし，先に指摘したように，アイデンティティの統合を成し遂げている者が積極的にインターネットに関係をもつという面もあろう．この2つの関係についての結論は，今回の資料から下すことはできない．この点の検討が次の課題である．

引用文献

文部省　1998　情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議最終報告　文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/002/toushin/980801.htm（2005年7月1日）

岡本祐子　1996　老年期のアイデンティティ様態と「人生の統合」の課題達成について　平成5・6・7年度文部省科学研究費一般研究(B)ライフサイクルにおけるアイデンティティの再度編成過程に関する研究（課題番号05451021）研究報告書，85–99.

小川晃子　2005　シニアネットワーカーの情報活用実践力 ── 岩手県内のシニアネット会員を対象とする調査結果を通して　岩手県立大学社会福祉学部紀要，**7**(2)，21–29.

総務省情報通信政策局　2004　平成15年通信利用動向調査報告書世帯編　総務省 http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/public/data2/HR200300_004.pdf（2005年7月1日）

高比良美詠子・坂元　章・森津太子・坂元　桂・足立にれか・鈴木佳苗・勝谷紀子・小林久美子・木村文香・波多野和彦・坂元　昂　2001　情報活用の実践力尺度の作成と信頼性および妥当性の検討　日本教育工学雑誌，**24**(4)，247–256.

― 2005. 7. 14受稿，2005. 10. 19受理―